NPO法人
原発ゼロ市民共同 かわさき発電所 ニュースレター

第71号

でん太通信

den ta tu～sin

●発行　2023.05.03. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者　川岸卓哉

■4/15-16「原発事故 ＆ 再エネ学習会 in フクシマ」学習企画報告

★当NPO法人主催のスタディツアーに２８人が参加。初参加された４人の方から感想をいただいたので前半にその記事を載せています。あわせて後半の報告もお読みください。

写真 NG１１人が抜け、１７人＋千葉さん➡

強風のなか、飯舘電力の太陽光パネル前で 📷 ✨

原発事故と飯舘村

～再エネに挑む飯舘電力～

匿名希望　A子さん（高校生）

私は福島県から少し離れた神奈川県に住んでいます。震災による被害が無かったため 3.11 原発事故は最近まで馴染みの無い出来事だと思っていました。しかし、ツアーの事前学習で母校の校庭に原発の放射性物質が保管されていることを知り、原発がある限り行き場の無い放射性廃棄物が増え続け移動するのだと、やっと身近な問題だと自覚しました。今回のツアーには危機感と目的意識をもって臨みました。

ツアーで特に印象的だったのは２日目の飯舘村です。辺りには森林が広がり風韻ある春の錦を織り成す素敵な村です。ところが残念なことに原発事故により多くの村民が離村を余儀なくされ過疎化が進んでいます。さらに、広大な農地がありながら放射線で汚染された土地で作ったものは簡単には売れません。そんな窮地に立たされた飯舘村で堅実に再エネに挑み続ける飯舘電力の千葉さんにお話を伺いました。千葉さんは原発事故との遭遇を運命的な現実と考えて「元気アップつちゆ」「飯舘電力」を立ち上げたバイタリティ溢れる方で、行動力と将来を見据えた考え方に感銘を受けました。

今回のツアーでは学校の授業にない特別な体験ができました。近年、脱炭素を目指す世界でコスパの良い原発が再評価されつつあります。私は、原発によって大好きな故郷や暮らしに戻れていない人が大勢いるのに日本がまた原発に頼るなんて悲しいなと思います。安心して暮らすために私を育ててくれた故郷を守るために再生可能エネルギーを応援します！

心の琴線に触れた、福島ツアー

匿名希望　B子さん（看護師）

今回は「百聞は一見に如かず」という諺を久しぶりに思い出しました。今も復興に奮闘されている福島訴訟原告団長や飯舘電力役員が語られた、見たもの、経験した事、考えた事は詳細な報道記事や番組でも不可能なレベルで、心の琴線に触れました。

原発事故は大地震に襲われた瞬間に起きたものではなく、過去から未来に続く一直線の歴史上で無視され続けてきた「不公平」等、様々な問題が絡み合って起きたものです。子どもの頃に見た『原発は安全です』という広告を思い出し、大きな声が正義を作ってきた世の中を変えていく強い決心が必要なのだと思いました。

脱炭素への取り組みが叫ばれる傍らで、最終処理が不透明な核のゴミを増やし続ける矛盾を、私は後世に説明できません。そんな思いを共有する方々と出会い、且つ楽しい時間を過ごす機会をいただき、ありがとうございました。

著名な歌人が言っていた「大衆を舐めるなよ」という言葉を思い出しつつ…

あの惨劇からの復興、原発の今を学びたかった

鈴木　真太郎さん（川崎協同病院　勤務）

私が小学校１年生の時に震災は起きました。当時６歳の私が立てないくらいの揺れだったことを今でも鮮明に覚えています。母の声で自宅に避難しテレビをつけたところ福島県の様子がライブカメラにて映し出されており、ここは日本なのかと疑うような光景でした。その後、原子力発電所が爆発したというニュースを見ましたが、幼い私には津波のことを整理することだけで頭がいっぱいでした。

そして時が経ち高校生になり、ふと、なぜ政府はこれほど危険な発電方法にこだわるのか？国民の安全とは？と思うようになり私自身も原子力発電について調べるようになりました。しかし、ネットに書いてあることをいくら見ていても現実の光景を見ないことには理解が深まらないと感じ、いつかこの目であの惨劇からの復興、原発の今を見に行ってみたいと考えていました。

そうしたところ職場の先輩から福島県へ原発のことを学びに行かないかという誘いがかかり、これはチャンスだと考え参加しました。実際に原発の仕組みを知り、当時の放射能の影響など各地を周りながら学ぶ中で、この出来事は風化させてはいけないと改めて感じることが出来ました。今では復興が進み綺麗な景色を取り戻しつつある飯舘村とは相反する当時の惨劇が目に見えるようなお話を頂き、私も職業柄様々な人と関わるため、この学習を活かし、よりたくさんの人々に原発はあってはならないということを呼びかけ、日本の未来に危険因子を残さないよう行動していきたいと感じることができました。またこのような企画等あれば是非参加してみたいと感じました。

今回感じた痛みを、行動に変えていきたい

内藤 花恵さん（社会人）

ツアーを通して、これまで原発の問題に取り組んでこなかった自分でも、都内近郊のデモや署名活動、学習会への参加は今すぐに始められる。ありがたい土壌を活用しながら、周りの友人たちも巻きこみ、領域を越えた連帯の輪を広げたい。こんな思いが強まりました。

被災者の方々から直接話を聞くはじめての機会。繰り返しお話しされてきたことが伝わる、わかりやすく淀みのない語りに、胸がしめつけられました。

今回感じた痛みをただ痛みとして終わらせずに、これからは行動に変えていきたい。気づけば、ハートが燃えていて、当事者の声が持つ力に偉大さを痛感しました。「原発事故は防げたはずの〝人災〟」、「原発は〝麻薬〟」 あたりまえの日々を奪われた人たちの言葉をしっかりと受け止め、これまで以上に強く、原発推進には NO、廃止と再エネ化の動きには YES を示していきたいです。

こんな大きな収穫がありながら、ツアーは終始笑いに満ちた楽しいものでもありました。ツアー参加者は原発・再エネの実情に明るい人生の先輩、好奇心に溢れた高校生、日本語を学んでいるカナダからの留学生まで、多種多様な背景を持った愉快なメンバー。そんな仲間と過ごした２日間は、本当に２日の出来事だったのかと、参加者同士で笑いあうくらい、大充実でした。企画者、福島の皆さん、参加者、すべての方に感謝しています。また次回も楽しみにしています！

4/15-16「福島学習会」報告

福島学習会企画委員長　**伊礼 悠花**（大学生・当 NPO 法人会員）

当 NPO 法人が主催する１泊２日のスタディツアー『原発事故＆再エネ学習会 in フクシマ』を2023年4月１５日～１６日にかけて開催し、２８人が参加しました。このツアーは、市民発電所の売電収益を活用して実施されました。

相馬・松川浦漁港にて、中島孝さんのお話を伺いました 📷 ✨

今回のツアーでは、『放射能汚染水の海洋放出問題（今）』、『福島原発事故の東電側の見解（過去）』、『原発には頼らない再エネの可能性（未来）』の三つの軸を基に当事者のお話を聞き、学びを深めていきました。さらに参加者同士での意見交流も盛んに行われ、今なお続く 3.11 についてどう向き合うか各々の思いを語り合いました。

１日目、まず初めに向かったのは相馬市にある中島ストア。原発事故からしばらくの間、大手スーパーやコンビニが閉まる中で、中島ストアは断水や停電で困っていた地域住民の食料調達を担う大切な拠点になっていました。店長であり、「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟の原告団長でもある中島孝さんより、地元・松川浦漁港にて、あいにくの雨でしたがバスの中で福島の美味しいものが詰まった

中島ストアのお弁当を食べながら、熱のこもったお話をお聞きしました。処理水の海洋放出については、「やはりいくら放射能物質を取り除いても、処理水に含まれるトリチウムは体内の炭素に結びついて体に残り続ける」と海洋放出反対のご意見でした。福島原発の生業訴訟については、最高裁は去年６月に「安全対策をいくら取っていたとしても、自然災害は想定をはるかに超えるものでメルトダウンは防げなかった。安全対策を取らせなかったからにしても、国に責任があるとは言えない。」という言い分で原告側の敗訴が決まったと悔しそうに、しかしながらまだ闘い続ける意志を燃やしながら語る姿は、「あなたたちには闘う意志があるのか」と問われているようでした。

富岡町にある「東京電力廃炉資料館」を見学 📷 ✨

その後、向かった「東京電力廃炉資料館」で私たちが見たものは、かなりのお金をかけて作り込まれた”きれいな”施設でした。「二度と事故を起こさないように、反省を活かし全力で取り組んでまいります」「貯水タンクに貯まった処理水は慎重な除染作業を繰り返し、安全基準を満たしたものになっています」という”きれいな”言葉で塗り固められた、東電のブランドを崩さないように作られた”きれいな”映像たち。そして、福島出身で事故前から東電で働いている職員さんももちろんいい人でした。見学時間を超えてもなお、私たちの質問に答え続けてくれ、誤魔化すことなく向き合ってくれました。ここで私が確信したことは、やはり目の前の利益を優先する東電という組織、原発に頼らざるを得ない社会構造が全ての原因で、福島で今もなお生き続けている人たちには何も罪はないということです。みなさんも一度、東電の廃炉資料館に訪れてみてください。

２日目は、放射能被害を受け、全村避難があった飯舘村で再エネ事業に取り組む飯舘電力㈱・千葉訓道さんからお話を伺いました。「道の駅までい館」の周りを見渡しながら「社会資本（お金）は余るほどあれど、社会関係資本（人）がいない村になってしまった」と悲しそうに語る姿はとても印象的で、１２年経っても原発事故前に戻ることはできなかったという言葉はとても重かったです。飯舘電力の発電所に移動し、再生可能エネルギーを推進する重要性についてもお聞きしました。２時間ちょっとじゃ、飯舘村の文化、歴史、そしてこれからの飯舘村について全ては聞くことができず、また飯舘電力を訪れたいなという気持ちが、後から沸々と湧いてくるような時間でした。

飯舘電力のソーラーシェアリングを見ながら千葉訓道さんのお話を伺いました 📷 ✨

「あぶくま洞」の鍾乳洞

帰路「あぶくま洞」を観光し、洞窟探検では大人も子どもも年齢関係なしにキャッキャとはしゃぎまくりでした。初対面なのにたった２日間でここまで仲良くなれるツアー中々ないです。次はぜひ皆さんも参加して下さいね！

三つの軸を通して感じたことを踏まえ、自分たちにできることは何かと模索するきっかけになってもらえたらと思います。3.11 から 12 年過ぎても福島は元には戻っていないように、時間はあっという間です。この学習会を通して確信できたこと、それは**「原発は日本にはいらない」**。ここ川崎から原発 NO の声を私はあげていきます。

■８００名が参加
「第１２回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会報告

原発ゼロへのカウントダウン事務局長　**鴨下 元**（当 NPO 法人理事）

２０２３年月１２日、４年ぶりに屋外での開催となる「第１２回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会＆デモが開催、８００名の市民が脱原発を求める声をあげました。会場では、たくさんの市民団体のテントが並び、沖縄舞踊やハンドパン演奏など文化行事も盛大に実施されました。

メイン集会では、「３１１子ども甲状腺がん裁判」弁護団の北村賢二郎さん、経済学者の金子勝さんの講演がおこなわれました。

福島原発事故による被曝は、多くの若者の人生を狂わせています。政府や電力会社は原発事故による健康被害はないかのような宣伝をしていますが、通常ではありえない割合で甲状腺がんが見つかっています。しかし、声をあげると本人や家族に対して「福島に対するイメージを悪化させ復興をさまたげるのか」などの誹謗中傷もあり、沈黙を強制させられている深刻な現状があります。

困難な状況のなか、事故発生時６歳～１７歳だった７名の若者が勇気を振り絞って、闘病のつらさ、人生の挫折の痛みを抱えながら裁判に立ち上がっています。原発事故が甲状腺がんの原因であることを認めさせるための裁判です。

原発事故から１２年が経っても、原発問題は終わっていません。むしろ、これからのたたかいが重要になっています。あきらめずに声をあげ続けていくことが大事です。「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」の活動へ、ひきつづく皆様のご支援・ご協力をお願いします。

・原発ゼロへのカウントダウン公式ツイッターで、
　金子勝さん、北村賢二郎さんの講演の動画を視聴できます。
　公式 Twitter　@GZCDkawasaki

・６月２５日（日）に『原発を止めた裁判長』の映画上映会を開催します。
　会場：「かわさきゆめホール」　向河原駅から徒歩約７分
　　※事前申込制　電話０４４－４３３－３００３

私も会員です　No.１２

中原区西加瀬　**広瀬 千尋**（ちひろ）さん

私は病院で三交代しながら 40 年勤務した看護師です。終の住処として三人の子育てもしながら住宅を購入し 30 年この地に住んでいます。ところが４年前自宅から 100m のところに「西加瀬プロジェクト」計画が持ち上がりとても驚きました。住環境を破壊するこの計画の反対運動に参加し２年たちます。

計画の中身は以下に記すように酷い内容です。「西加瀬プロジェクト」とは、三菱ふそう跡地（10 ヘクタール、場所は中原区西加瀬）に日本最大級の物流倉庫を建設する計画です！　片側一車線の道路まん前、住宅密集地のど真ん中に、巨大物流倉庫を建設する計画です。住宅密集地に造るのは日本で初めてとのことです。24 時間フル稼働、大型、小型トラックを含む １ 日 1347 台（平均）の車両が片側 １ 車線の生活道路に昼夜連続で出入りする計画です。生活や環境が破壊されます。計画は、幅が 230m、高さ 50m（17 階建てビルに匹敵）、東京ドーム１個分の大きさです。自動車交通が最大の問題です。騒音、振動、粉塵、大気汚染、交通事故、渋滞発生、とんでもない計画です。この恐ろしい計画は、ぜひ中止して欲しいと思います。未来を生きる子ども達の命を脅かす計画です。

１月２５日の川崎市の街づくり委員会の議会採決では３０８０筆の住民の請願も共産党以外の反対で不採択にしました。理由もハッキリ述べません。なんと冷たい対応か。事業者に寄り添い、民間がやることだから中止とは言えないなんて、本当に何のための議員かと思いました。そういわれても仕方ないのではないでしょうか。川崎市も議員さん達もこのような住民に寄り添えない態度では持続可能な地域や社会は創れないのではないでしょうか。

私も参加している「巨大物流倉庫を考える住民の会」では昨年 10 月から、毎週日曜日 16 時～17 時に元住吉駅前で宣伝行動をしています。シール投票も始めました。ネット署名付きのチラシも配っています。諦めず粘り強く活動をしようと思います。子どもたちへ良い環境を残せるよう頑張りたいと思います。

https://qr.paps.jp/7f6fx

【編集後記】

川崎は３月下旬に桜が満開となりましたが、福島は４月１６日でも桜がまだ残り、新緑の樹々や畑一面の菜の花と相まって美しい景色を楽しませてくれました。

今回の福島学習企画では、東京電力福島原発事故によって被災した方々の生の声をお聞きすることにこだわりました。公共施設として何十億円もかけた綺麗なハコモノが建設され、いっぽうで廃墟になってしまった家々。放射能汚染で生業を奪われ、これまでの暮らしを奪われ、１２年経っても全く復興していないことを肌で感じ理不尽さに悲しくなりました。あらためて私にできることをやり続けよう!という気持ちです。（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/

フェイスブック

https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden

メールアドレス　genpatuzero.hatuden@gmail.com

連絡先　TEL　044－211－0121　（川岸）

でん太通信は、２ヶ月に１回程度発行しています。